

TOPICS

表裏で異なる物性を持つ布の研究開発

— 快適なマスク基布への活用を目指して —

繊維生活部 奥村 航 (おくむら わたる)

okumura@irii.jp

専門：繊維・高分子材料、複合材料

一言：繊維製品の開発に取り組んでいます。



細菌やウィルス等による感染予防対策の一つとしてマスクの着用が推奨されていますが、暑い季節での快適性に課題があります。そこで今回、表裏で異なる表面性状を持つ生地に対して、接触冷感性と通気性を評価することで、マスク基布への活用性を検討しました。

図1に2/1綾織の接触冷感性と通気性を測定した例を示します。接触冷感性は表面が裏面よりも高く、さらに通気性は空気の流れが裏面→表面となる方がその反対よりも良いことを示しています。そこでこの生地の表面を皮膚への接触面となるようにマスク基布を設計すれば、着用時には接触冷感性が高く、より呼吸がしやすい快適な夏季用マスクに活用できます。

工業試験場では繊維に関する様々な評価装置をご用意

し、繊維製品の開発支援を行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

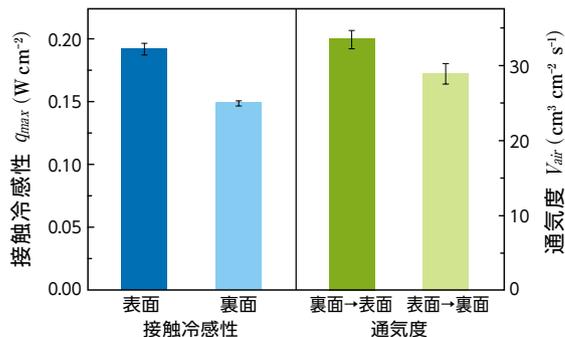


図1 生地の接触冷感性および通気性

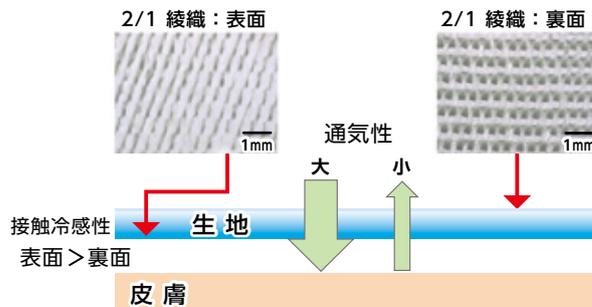


図2 マスク基布としての想定使用例